

6. 事業内容	<p>本事業はバングラデシュで疾病負荷が深刻化する非感染性疾患のリスクを低減させるため、3つの活動（活動1：健康教育、活動2：保健サービスの質とアクセスの改善、活動3：分野間連携による非感染性疾患対策の整備）を通じ、対象地域の非感染性疾患の予防と管理に関する能力の向上を目指す。2年次は、活動1（健康教育）を1年次に引き続き行うが、活動2（保健サービスの質とアクセスの改善）に注力していく。</p> <p>なお、本案件はバングラデシュ国別援助方針の重点分野「社会脆弱性の克服」に該当する。</p> <p>活動1：健康教育の実施も継続して実施する。</p> <p>1年次に結成した社会支援グループ（以下：SSGとする）メンバーから、教育機関を巻き込むことが有効であるとの提案を受けた。この点に関し、プロジェクトは学校関係者と協議をした結果、高い関心が示され、「中等部教師 NCD リスク管理研修」を実施することとした（新規活動）。これにより網羅的で継続的な啓発活動が可能になる。また、SSG はコミュニティグループ（以下：CGとする）に対して適切に指導・支援ができるよう、各SSG で実施された優良事例を共有する「SSG メンバー間情報共有会議」を企画することとした（新規活動）。</p> <p>1年次の活動成果を反映し、啓発教材（ステッカー、ポスター、ドキュメントクリップ、啓発メッセージ付ダイアリー）および運動教材を開発する。新規活動として、各ユニオンに5か所ずつ情報掲示板を設置し、四つのリスク要因とそれが引き起こす疾病を図解することとした。これらの教材を用いて、地域住民への啓発を実施し、行動変容を促していく。</p> <p>活動 2-1 プロジェクトが保健従事者に対し非感染性疾患に関する研修を実施する。</p> <p>保健サービスの質の改善を目的として保健医療従事者、村医者ら保健サービス提供者に NCD の早期発見能力と管理を高めるための研修を実施する。それに先駆けて、プロジェクトは保健サービス局の NCD 対策ガイドラインに沿って研修マニュアルを作成する。この研修により、1)腹囲・体重および血圧等の測定、NCD および砒素中毒の疑われる患者の発見と医師による診断、2)より詳細な臨床検査・助言を受けることのできる医療機関への照会、3)地域行政サービス(水質検査等)の情報提供、などの能力を保健医療従事者や保健サービス提供者が獲得することが期待される。各地域に適した照会システムを形成できるよう、プロジェクトは各関係者と協議を重ねていく。</p> <p>政府が地域保健サービスの拠点と位置付け強化を進めているのはコミュニティクリニック（以下：CCとする）であり、本事業でも CC とそれに属する保健従事者を主な強化対象としている。政府は CC をコミュニティに支えられた、最も身近な保健拠点とすることを目指しているが、CC の保健サービスに関する正しい情報は住民間に浸透しているとは言えない。CC の運営委員会メンバーは政府によって割り当てられるが、学校教師や SSG の一部メンバーも委員を兼任している。そのため、活動1で行う SSG の能力開発や住民啓発は、政府の行っている地域保健サービスの強化にも貢献することとなる。</p>
---------	--

	<p>活動 2-2 プロジェクトと地域関係者がメディカルキャンプを実施する。</p> <p>上記の活動 1 および 2-1 を通じて、保健医療従事者、SSG メンバー、学校教師および生徒が、NCD の情報を得て、対策の必要性を理解することとなる。その後、メディカルキャンプを実施する。メディカルキャンプでは、生活習慣と非感染性疾患の関係、砒素汚染水の長期飲用と慢性砒素中毒症の関連の周知、腹囲・BMI や血圧の測定を通じた健康への意識向上、各地域で優先されるべき疾病の発見、および医師による診察で非感染性疾患患者を発見することなどを主な目的とする。また、発見された患者については適切な医療機関に照会する。</p> <p>活動 2-3 診断を受けた患者が保健医療従事者から継続的に指導を受ける</p> <p>非感染性疾患と診断を受けた患者が保健・医療管理下におかれ、重症化しないように継続的な適切な支援を受けられることが必要である。継続的な支援には、患者・地域の保健施設・病院の 3 者間の情報共有が不可欠となる。このためプロジェクトは、患者登録台帳およびカードを作成し、診断後のフォローアップが定期的に適切に実施されるように支援する。砒素中毒患者管理については保健サービス局が実施体制を整備しているが、NCD 患者については登録システムも未整備なうえ、患者数が多く疾病の重複もあって管理が複雑になることが予想される。関係者と協議の上、現実的な管理体制モデルを構築することは、2 年次の重要な活動の一つである。</p> <p>これらの活動を通じて、1) CC のサービスに対する住民側の認識が高まってアクセスが改善され、2)CC の保健従事者が継続的に検診・指導する NCD 患者が増え、3)患者の状況に応じて郡・県病院あるいはその他医療施設へ照会、情報提供が適切に行われるようになることが期待される。</p> <p>日本国内の活動：2013 年 5 月に策定された国際保健外交戦略文書に「対処が必要な新たな課題」と明記された非感染性疾患に対して、本プロジェクトが日本の優位性を活かしてバングラデシュで対策実施していることを積極的に発信していく。</p>
7. これまでの成果、課題・問題点、対応策など	<p>①これまでの事業における成果（実施した事業内容とその具体的成果）</p> <p>指標 1-1 健康課題が各地域で設定される</p> <p>12 地域の全 SSG が結成され、地域毎の健康課題も設定された。</p> <p>247 名の SSG メンバー選出は、当初よりユニオン評議会を通じて準備され、参加型手法を活用した会議を通じて行われた。SSG メンバーは、政府医療機関医師による非感染性疾患研修を通じて、活動の重要性をよく理解することができており、当プロジェクト実施に非常に高い関心を持っている。247 名の SSG メンバー選出は、当初よりユニオン評議会を通じて準備され、参加型手法を活用した会議を通じて行われた。SSG メンバーは、政府医療機関医師による非感染性疾患研修を通じて、活動の重要性をよく理解することができており、当プロジェクト実施に非常に高い関心を持っている。SSG 研修で使用した研修モジュールは、研修参加者が容易に NCD を理解できることを目指して疾病発生のメカニズムを図示するなどして作成した。参加者からは理解が深められたと好評を得た。研修の最終段階で各 SSG は協議を行い、</p>

各地域が緊急的に対応すべき課題として、高血圧、糖尿病、脳卒中、喘息などがあがり、それに対応するために健康意識を向上させるための啓発活動と個別のキャンペーン（減塩、運動推進、禁煙、改良竈普及、水質検査、BMI&血圧測定）などが実施されることが決定した。それらの活動はすでに開始され、12月末現在、BMI&血圧測定キャンペーンには約800人が参加した。

指標 1-2 50%のCGメンバーが非感染性疾患予防の行動を取り入れる

CGは、患者・家族・NCDに関心のある住民を中心に結成された。CGはWSを通じて情報を提供し、SSGやプロジェクトが支援・介入をすることでどのような変化が現れるか、あるいは効果が出にくいかを把握していくモニターグループである。8~9月に、4ユニオン各3つのグループ、計12CGの241人に対して、1回目のWSが実施された。NCDに関して学んだあと、各自で変えたい生活習慣を選択した。12月よりCGメンバーに対するモニタリングが開始され、1月から2回目のWSが開催されている（実施中）。

指標 1-3 啓発教材が完成する

啓発教材の作成は以下のとおり進んだ。

- 1] 研修用のデジタル教材を完成させ利用。
- 2] 一般啓発用に開始から12月までは手作りポスターを使用した。1月に外注した啓発用カードが完成。
- 3] 啓発劇の台本が作られ、リハーサルが終了した。政情不安のため大規模な劇の上演会は見合わせ、予定より小規模なストリートドラマを、状況を見ながら実施していく予定。
- 4] 11月に運動指導を試行し、教材の元となる資料を作成した。2年次の運動指導の専門家の派遣後に完成させる予定。
- 5] 保健施設や村医者が患者に配布するためのガイダンス用チラシを作成。

指標 1-4 地域の健康課題を理解する住民の数（1年次はフォローアップ調査対象者の10%）

12月末までに8人のFFは約4200人にInformation Communication Campaign*を、約5700人に一般啓発**を実施した。SSGメンバーとヘルスワーカーが啓発セッションの準備に協力している。指標の「地域の健康課題を理解する住民の数」は、フォローアップ調査の結果を待つ必要があるが、NCD予防への関心は高く、多くの参加者が予防行動を開始し、周りにも推奨している。

*市場など人が集まる場所にて事業の趣旨説明をして、理解・協力を求める。主な対象は男性

**集落内の広場などで行い、主な対象は女性

②これまでの事業を通じての課題と対応策

1] 社会的背景に配慮した啓発手法の確立

啓発においては、i) 減塩や運動によってNCDリスクを低減することは出来るが、ii) すでに医療の管理下にある人は医師の指示を優先するように、と説明している。しかし、啓発活動参加者のモニタリングの中で、「塩分を控えているので、血圧の薬を止めた」との話が上がった。間違った自己判断の背景には経済的理由から継続服用が負担になっていることがある。こうした患者側の傾向を念頭に置き、新たなリスクを発生させない啓発手法を確立することが重要である。郡保健所を含む関係者とはこの問題

を共有し、保健人材およびプロジェクト関係者の情報発信の際に十分な配慮をするよう促していく。

2] 政情不安

2014年1月5日の総選挙は野党側のボイコットにより与党側の勝利となったが、選挙後も混乱が続いている。政情不安により、地方行政機関の活動が停滞し、また、与党によって整備されたコミュニティクリニックの運用に関する見通しが立ちにくくなっている。この問題への対応策として、地域の人材と信頼関係を築き、事業の必要性を共有することで、組織的な問題に巻き込まれず臨機応変に対応できるよう努める。

③持続発展性

この事業は、既存のサービスプロバイダー側の強化と住民側のエンパワーメントをだきあわせることで、持続発展性の確保を目指している。

- 1] 住民が健康のための資源(保健・医療・福祉等サービス)を利用する際に、そのアクセスの容易さおよびその公平性は重要である。地域の既存のサービスプロバイダー(施設・組織・人材)がその重要性を理解し、新しい課題であるNCD対策の担い手になれるよう強化することで継続性を担保する。具体的には、これまで母子保健と感染症を主な活動対象としていた保健人材と施設、安全な水供給や貧困対策などを住民の福祉を実現する地方行政機関、またスクールヘルスの受け皿でもある学校、宗教施設や指導者、および薬局や村医者に対して、前記「重要性」に関する働きかけを行う。
- 2] 持続発展性を高めるには、サービス供給側の強化と共に、住民側のエンパワーメントが重要である。住民側の生涯を通じた健康への意識を高めることで、自己管理能力の向上が図られる。そのため、保健ボランティア活動や啓発およびキャンペーンへ活動への参加を通して、住民による「健康のための資源」への積極的な活用を促し、更に、「一人から一人へ啓発」が広まることで予防網が貼られることをめざす。FF・SSG・CGのメンバー計約500名は事業終了後も地域の健康増進に寄与する人材として育成する。
- 3] NCDによる疾病負荷の増大とその対策の緊急性はWHOや国連など国際社会によって重要視され、ポスト2015開発アジェンダの主要テーマの一つとして注目されている。バングラデシュ政府も保健栄養人口セクター開発プログラム(2011~2016年)の中でも「次のチャレンジ」として明確に位置付けている。これらのことから、NCD対策は今後政策レベルで強化されていく可能性が高い。保健サービス局と連携を深め、本事業の成果が今後の政策に反映されるよう働きかけていく。

④出口戦略

WHOは、Global Action Plan For the Prevention and Control of Non communicable Disease 2013-2020の中で、6つの目標を掲げている。そのうちの目標3に「修正可能な危険因子と潜在する社会的要因を、健康増進の環境を整備することを通じて縮小する」を掲げており、また国際パートナーの支援を呼び掛けている。本事業の成果はこれらとの関係が特に深い。

本事業では、NCD危険因子として共通の「不健康な食事」「運動不足」「喫煙」の他にバングラデシュの現状に合わせて、「砒素に汚染された水」「旧

	<p>式のかまど」を加えたモデルを確立する。</p> <p>なお、Global Action Plan では「NCD による回避可能な疾病負荷のない世界」実現のための行動計画が依拠すべき 9 つの原則を提起している。本事業はそのうち特に「衡平性の確保」「分野間連携による行動」「ライフコースアプローチ」「住民とコミュニティのエンパワーメント」「ユニバーサルヘルスカバレッジ」に着目し、グッドプラクティスを形成していく。</p> <p>本事業の出口戦略は WHO の指針に沿って、i) 個人の生活習慣と健康に着目して生活の質の向上を図るとともに、ii) 社会環境の整備に関する課題を明確にして、iii) 保健サービス局および政策立案者が参照できるような最終報告書およびマニュアルを作成することとする。換言すれば、バングラデシュ政府に対して同国の NCD 対策に役立つグッドプラクティスを提案するものである。</p>
--	--